## 安らぐくらしのためにできること

そんな日常も今では当たり前 な消毒。 毎日 きな変化がみられています。 た毎日を送れるように努めて 葉に利用者の皆さんが充実し 者と共に作っていく」を合言 者が安らげるくらしを、 での食事。そして外出の自粛。 います。 の情景となりましたが、「利用 暮らし方にも、 いながらの食事から自室 のマスクの着用やこまめ 口 ナ 禍 食堂での仲間とのふ 12 におい てホ 以前とは大 」 ム 利用 で

様々な制約のある現状下でも余暇支援として多くのイベも余暇支援として多くのイベルに楽しんで頂いています。の年度は自分の好きなメニューのテイクアウトやかき氷会、

添 工夫していきたいと思います。 後も利用者の皆さんに楽しい 先の見通しはつきません。 解除されましたが、まだまだ たのではないかと思います。 により、信頼関係を深められ 今まで以上に向き合い、 じてしまう利用者さんには、 ることにより、不安を強く感 ŋ 毎日を送って頂けるよう創意 などを行ってきました。 また帰省や外出が制限 十月に入り緊急事態宣言は い一緒の時間を過ごすこと 今





勤続8年 石田以久子生活支援員

## ともに・・・

関係機関と共にチームとなり、 望む生活に近づけ、 ご家族の日常生活や社会生活 ております。 福祉サービスのご案内や調整 択していけるように、 み等の相談を受け、ご本人が を営む上で、お困りな事や悩 さんから90 社会参加等の情報提供を行っ ほっとでは、 人の相談者がおり、ご本人や 館 障がいをお持ちの約九百 林邑楽相談支援セ 歳の高 現在2歳 齢の方ま 自らが選 様々な ン お子 タ

がら、再び前を向いて一歩踏がすった止まり、時には後ずさず立ち止まり、時には後ずさずする気持ちになることもあります。そんな時でも、私達相談員は、ともになることもある。

て待つことも大切な事だと感み出せることを信じ、見守っ

じています。

一 今後も、新たな感染症や自然災害への不安は続くかと思 がます。又、少子高齢化の中 で、家族や地域で支えあう力 で、家族や地域で支えあう力 で、家族や地域で支えあう力 い上げ、関係機関の皆様と共 に協力しながら、より良い地 に協力しながら、より良い地 に協力しながら、より良い地

談支援専門員

勤続4年 中田陽子